

助動詞 「じ」「まじ」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
まじ	○	まじく	まじ	まじき	まじけれ	○

◇接続

「じ」は未然形接続、「まじ」は終止形接続（ラ変型には連体形接続）になります。

◇意味

① 打消推量「～ないだろう」

∴ 主語が「三人称」のことが多い。

例）暗けれど、久しく住み慣れし里なれば迷ふべうもあらじと、（雨月物語）

（暗かったが、長い間住み慣れた故郷であるから迷うはずもないだろうと、）

② 打消意志「～よう」

∴ 主語が「一人称」のことが多い。

例）昔、男ありけり。その男、身をえうなきものに思ひなして、京にはあらじ、（伊勢物語）

（昔、男がいた。その男は、自分を役に立たないものと思い込んで、京にはいるまい、）

③ 不可能「～できない」

∴ 「え～まじ」の形になることが多い。

例）媼抱きてゐたるかぐや姫、外に出でぬ。えとどむまじければ、（竹取物語）

（媼が抱いて座っていたかぐや姫は、外に出てしまった。ひきとめることができないので、）